

事務事業名	三つの木の家管理運営事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連			
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課	
施策名	21	生涯学習の推進		所属係	生涯学習班	課長名	野本 立一	
基本事業名	80	生涯学習・スポーツ施設(環境)の整備		担当者名	衛藤 剛	電話番号 (内線)	096-248-5555 1503	
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 05	事業 三つの木の家教育施設費	法令根拠		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 平成2 年度 ~) (年度 ~ 年度)							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)		
(事業の内容) 三つの木の家の維持管理を行う (業務の内容) 三つの木の家施設全般の消耗品、備品補給や施設各所の営繕、維持管理を行い、市民が利用しやすい施設環境を整える。 (予算の内訳) 報酬(管理員相当分)、需用費(消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費、燃料費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料、原材料費						総投入量	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)	0
							正規職員従事人数 延べ業務時間	
							人件費計 (B)	0
							トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

①(物件費)寝具リース、クリーニング、ボイラー点検修繕、芝広場の管理、各種公共料金の支払い等

②(人件費)施設管理員2名への報酬

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

18年度と同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市民(三つの木の家利用者)

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

三つの木の家の施設を快適に利用してもらう。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

活動する場がある。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 人件費、物件費の事業費実績額	円
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 施設が快適になったと思う市民の数	人
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 施設を利用する市民の数	人
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円			483	450	450	450
	一般財源	千円		5,216	4,968	5,897	5,900	5,900
	事業費計 (A)	千円	0	5,216	5,451	6,347	6,350	6,350
	正規職員従事人数	人	6	6	6	6	6	6
	延べ業務時間	時間	550	550	550	550	550	550
	人件費計 (B)	千円	1,375	1,375	2,184	2,184	2,184	2,184
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,375	6,591	7,635	8,531	8,534	8,534
活動指標	円		5,366,000	5,206,000	6,135,000	6,138,000	6,138,000	6,138,000
対象指標	人		22,000	23,000	53,000	53,500	54,000	54,500
成果指標	人		未調査	未調査	未調査	500	550	600
上位成果指標	人		3,849	2,935	3,612	4,000	4,200	4,400

合志市

事務事業名	三つの木の家管理運営事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
平成元年4月に三つの木の家が開館し(学校教育施設として)、施設の維持管理が必要となった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
平成11年度から、社会教育施設として再スタートし、旧合志町地域の学校だけでなく、住民団体の活動にも使用できるようになった。合併後、旧西合志町地域の学校、住民にも使用できるようになった。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
特に聞いていない。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 施設設備の維持管理は、利用者(市民)には必要最小限のサービスであり、生涯学習振興の基本的な事業である。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市+B66が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 施設の経年劣化により維持管理費用はかさんでいくが、地域住民の生涯学習の拠点として利用をしていただく以上、必要最小限の維持管理は行政の責任で行わなければならない。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 施設の維持管理は、施設利用者の利便向上を目指すものであるため、対象意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 施設の利便性向上を図り、市民が利用しやすい施設であるためには、常に時代の要請にあった施設を考えていかなくてはならないが、それには多額の投資も必要である。 現在は厳しい財政事情で必要最小限の施設維持のみ行っているため、施設の近代化が追いついていない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 施設の維持管理を怠ると、多数の利用者に不快感を与え、老朽化は進み、施設自体の安全性を欠くことになり、市民に危険な施設を提供し続けることになる。 市民の安全確保のためにも計画的に事業を進めるべきである。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】⇒ (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 単体で兼摂された施設であるため、理事施設は他にもあるが、施設経年も異なるため、連携や共同の事業実行は困難であった。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 物件費の内訳は、各公共料金や修繕費であり、利用者の協力により市民みんなで儉約に努めており、必要最小限の計上のみである。これ以上の削減は難しいと思われる。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 正職員の関与を最小限に抑えるため、管理員2名を配置している。この現場管理員の報酬も低額なので削減も難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 施設利用の市民には、受益者負担の原則に従い、施設に維持管理の一端を担っていただくため、施設使用料の負担をいただいております。利用者による適正な維持管理に貢献しており公平公正であると考えています。

合志市

事務事業名	三つの木の家管理運営事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

施設設備の利便性向上を図り、市民が利用しやすい施設であるためには、常に時代の要請にあった施設を考えていかなくてはならないが、それには多額の投資も必要である。
現在は厳しい財政事情で必要最小限の施設維持のみ行っているため、施設の近代化が追いつかず、市民全てが使いやすい施設とはなっていない。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

この施設は従来青少年の育成に供する面が強かったが、今後は高齢な市民などの利用も安心して出来るようなバリアフリー面の改修等を加える必要がある。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

厳しい財政状況の中であるが、上記のような投資については優先して予算化できるように配慮すべきである。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項